

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

マーク式 65 記述式 7 論述式 3

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

マーク式は1つ減少, 記述式は4つ減少, 論述式3は同数ながら, 30字, 40字, 30字から, 40字, 30字, 40字と字数がやや増加し, 全体の分量はほぼ同程度である。それぞれの大問は, いずれもやや細かい知識を問う問題がいくつかみられるものの, 全体的には基本的内容が中心であり, こうした問いは取りこぼさないようにしたい。全体の難易度は変化なし。

出題の特徴や昨年との変更点

例年の通り, 長文の空欄補充を中心としたマーク式に加え, 記述式, 論述式が併用して出題された。問題数が多いので, 語群にある多くの用語が50音順に並べられていることをふまえ, 想定される解答を素早くみつける必要がある。また, 求められる解答がわからなくても, 語群の中から候補となる用語を絞り, 消去法で選べることもあるので, 粘り強く対応したい。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク式 記述式 論述式	フォーミュラワン (F1)の開催国や開催都市	F1の開催国や開催都市に関する長文を用いた問いであるが, F1の知識がなくても解答は可能である。問5のBTCのBaku (バクー) はアゼルバイジャン, Tbilisi (トビリシ) はジョージア, Ceyhan (ジェイハン) はトルコの都市である。	標準
II	マーク式 記述式 論述式	繊維工業とアパレル産業	基本的内容の問いが中心であるが, 問1の(53)(54) - 12 (70), (63)(64) - 51 (マーギー), (71)(72) - 38 (タイ), 問2の2 (ポリエステル), 問6のウォーターフットプリントはやや難しかった。	標準
III	マーク式 記述式 論述式	ヨーロッパの地誌	問1の(85)(86) - 32(人口)は14(GDP), 50(面積), (89)(90) - 25(サミット)は24(国連安全保障理事会), (105)(106) - 57(ルーラル・ツーリズム)は16(エコツーリズム)といったそれぞれのダミーに惑わされないようにしたい。(117)(118) - 17(エストニア)と(119)(120) - 20(結束基金)はやや難しい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 資源や産業, 企業活動の国際化や先端産業の動向, そして, 生活文化, 国家・民族, 紛争は頻出の分野である。
2. 地誌は, 自然, 産業, 生活文化, 都市, 近現代史まで幅広く問われる。地図を用いた出題は近年みられないが, 地図をもとに述べられた長文や, 地理的位置から判断させる出題もみられるので, 常に地図帳を用いた学習が必要である。
3. 論述は, 教科書の内容を短い字数で述べる標準的なものが多いことから, 教科書の太字の語句やテーマを30~40字程度で説明できるようにしよう。
4. 教科書の内容に沿った基本的内容の出題が多く, 脚注にある図や各種統計の説明も含めて, 教科書を徹底して読み込み, 用語の定義や事項の説明などを整理しておこう。
5. 過去問を通して, 本学独自の長文の空欄補充形式に慣れよう。なお, 空欄に適当な語句を入れて完成させたこの長文は, 学習のまとめとして利用することができる。